

第五回高校生国際シンポジウム報告・アンケート結果

基本情報

- 1 主 催 一般社団法人 Glocal Academy
- 2 協 賛 学校法人福岡雙葉学園理事長, 学校法人麻生塾塾長 麻生泰 (特別協賛)
株式会社 新興出版社啓林館, 株式会社 JTB, 等
- 3 後 援 文部科学省, 経済産業省, アメリカ大使館, 鹿児島県教育委員会,
オックスフォード大学日本事務所
- 4 テーマ 「人類の英知の上に立ち, 未来を創る」
- 5 目 的 日頃の研究成果をスライド発表やポスター発表としてまとめ, 生徒が自らの研究成果を発表するとともに, 参加者間の交流を深めながら今後の進路選択や社会への理解を深めていく。
- 6 期 日 令和2年2月13日(木), 2月14日(金)
- 7 会 場 宝山ホール 〒892-0816 鹿児島市山下町5番3号(鹿児島県文化センター内)
- 8 日程

【1日目】 2月13日(木)		【2日目】 2月14日(金)	
受付	9:00～9:30	受付	8:30～9:00
開会行事	9:30～10:00	ゲスト講演	9:15～10:00
基調講演	10:00～10:30	表彰式・講評(※3)	10:15～11:30
パネルディスカッション	10:40～11:50	パネリスト・審査員との交流会	11:45～13:20
昼食	11:50～13:00	ワークショップ(※4)	13:20～14:10
課題研究発表・審査会	13:00～17:15	優秀発表・グランプリ発表(※5)	14:15～15:55
第1部	(13:00～14:15)	閉会行事	16:00～16:20
第2部	(14:30～15:45)		
第3部	(16:00～17:15)		
研修会(※2)・生徒交流会	18:00～		

主催団体について 一般社団法人 Glocal Academy (所在地: 鹿児島市) は, 社会や学術における諸課題に対して客観的なデータ分析や社会・歴史的背景をもとに解決する事を目的とし, 教育支援事業により後進の育成を, コンサルティング事業によりそれら課題に取り組む個人及び団体を支援します。

代表理事 岡本尚也 (物理学博士) 鹿児島県出身, 慶応義塾大学理工学部卒, 同大学院理工学研究科修了, ケンブリッジ大学にて物理学博士号, オックスフォード大学にて現代日本学修士号取得. 2018年米国国務省事業 International Visitor Leadership Program メンバー, その他文部科学省事業委員等
主な著書: 課題研究メソッド (啓林館), 東洋経済オンライン英国流創造と学びの技法等。



一般社団法人
Glocal Academy

9 講演

【基調講演】慶応義塾大学 法学部 教授 田村次郎 氏 演題『探究の面白さとその意味(仮題)』

慶應義塾大学法学部教授、ハーバード大学国際交渉学プログラム・インターナショナル・アカデミック・アドバイザー、ホワイト&ケース法律事務所特別顧問(弁護士)、交渉学協会理事長、説得交渉学会 会長。専門は経済法、国際経済法、および交渉学。各省庁などの委員を務めるとともに、日米通商交渉、WTO(世界貿易機関)交渉等に携わる。ハーバード大学国際交渉プログラムのインターナショナル・アカデミック・アドバイザー、ダボス会議(世界経済フォーラム)の「交渉と紛争解決」委員会の委員を務める等、最前線における国際交渉の活躍経験もある。日本における「リーダーシップ基礎」・「交渉学」の研究・教育の開発に取り組んでいる。

主要著書:『WTO ガイドブック第2版』弘文堂、2006年、『ハーバード×慶應流 交渉学入門』中央公論新社(中公新書ラクレ)、2014年

【ゲスト講演】東京大学名誉教授(公財)船井情報科学振興財団副理事長 益田 隆司 氏
演題『これから生きる君たちへのメッセージ』

東京大学名誉教授、工学博士。日立製作所中央研究所に勤務後、東京大学理学部情報科学科教授、理学部長、理学系研究科長、電気通信大学長を経て現在、公益財団法人船井情報科学振興財団業務執行理事。海外の大学院でPh.D.取得のための留学を目指す日本人留学生に奨学金支援の活動をしている。毎年海外での交流会を開催する等、支援学生相互の交流も積極的に図っている。

10 パネルディスカッション テーマ「高校生にいま必要なこと」

司会者:岡本 尚也

一般社団法人 Glocal Academy 代表理事

パネリスト

○アリソン ビール オックスフォード大学日本事務所所長

○宇津木 光代 シュプリングナーネイチャー

○日下部 元雄 (株)オープン・シティ研究所所長、元世界銀行副総裁

○浅野 大介 経済産業省大臣官房 政策審議室 企画官

○森田 洋平 沖縄科学技術大学院大学准副学長

○島津 公保 島津興業取締役相談役

11 ワークショップ

「Soft Power: Storytelling and Influence (English)」

Ms. Yuki Kondo-Shah Public Affairs Officer at the U.S. Consulate in Fukuoka, Japan

「研究の魅力を60秒で語ろう (English/Japanese)」

沖縄科学技術大学院大学准副学長 森田 洋平氏

「SDGs 目標12 持続可能な消費と生産のパターンの政策研究について(English/Japanese)」

地球環境戦略研究機関(IGES) 毛 彩霞(マオ チャイシャ)氏

「留学を視野に入れた、10代、20代の人生設計 (Japanese/English)」

一般社団法人 Glocal Academy 代表理事、物理学博士 岡本 尚也 氏



一般社団法人

Glocal Academy

12 参加発表参加者

総申し込み数：157（スライド発表：79，ポスター発表：78）。

書類審査通過数：103（スライド発表：50，ポスター発表：53）。

13 参加校

①都道府県：22 都道府県

北海道，秋田県，新潟県，千葉県，東京都，岐阜県，愛知県，大阪府，兵庫県，鳥取県，島根県，岡山県，広島県，山口県，香川県，高知県，福岡県，佐賀県，長崎県，熊本県，宮崎県，鹿児島県，

②学校：74 校（発表校：43 校，見学参加校：31 校）

郁文館グローバル高等学校，英明高等学校，岡山学芸館高等学校，岡山県立岡山一宮高等学校，岡山県立倉敷青陵高等学校，岐阜県立岐阜高等学校，宮崎県立宮崎大宮高等学校，宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校，宮崎県立高鍋高等学校，近畿大学付属附属高等学校，熊本県立玉名高等学校，熊本県立天草高等学校，佼成学園女子高等学校，広島市立広島中等教育学校，広尾学園高等学校，高知県立高知小津高等学校，佐賀県立佐賀西高等学校，札幌日本大学高等学校，三田国際学園高等学校，市川学園市川高等学校志學館高等部，鹿児島県立錦江湾高等学校，鹿児島県立甲南高等学校，鹿児島県立国分高等学校，鹿児島修学館高等学校，鹿児島南高等学校，芝浦工業大学柏高等学校，秋田県立大曲農業高等学校，新潟県立津南中等教育学校，神戸市立科学技術高等学校，神村学園高等部，大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎，大阪教育大学附属高等学校平野校舎，大阪府立岸和田高等学校，池田学園池田高等学校，長崎県立諫早高等学校，鳥取県立倉吉東高等学校，姫路市立姫路高等学校，兵庫県立柏原高等学校，名古屋経済大学市邨高等学校，名城大学附属高等学校，明治学園高等学校，明星高等学校，ノートルダム女学院中学高等学校，東京都立小松川高等学校，熊本県立鹿本高等学校，東京都立新島高等学校，熊本県立上天草高等学校，東京都立南多摩中等教育学校，熊本市立必由館高等学校，灘中学校・灘高等学校，鹿児島県立武岡台高等学校，福岡県教育庁教育振興部高校教育課，広島県立祇園北高等学校，福岡県立山門高等学校，佐賀県立鹿島高等学校，兵庫県立柏原高等学校，鹿児島実業高等学校，豊田市教育局委員会学校図書館司書，鹿児島県立大口高校，霧島市立青葉小学校，鹿児島県立曾於高等学校 明星中学校・高等学校，松蔭高等学校 野田学園高等学校，神戸市立神港橘高等学校，有明高等学校，神戸市立須磨翔風高校 宮崎県立宮崎商業高等学校，神村学園高等部，青山学院中等部，大阪府立四條畷高等学校，筑波大学附属高等学校，島根県立松江北高等学校

14 広告掲載団体

株式会社 新興出版社啓林館，株式会社 JTB，沖縄科学技術大学院大学，株式会社センコー，株式会社研文堂，東京書籍株式会社，一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT），カミチクホールディングス，南国交通，前田塾，鹿児島国際大学，関西大学，関西学院大学，九州大学，宮崎大学，立命館アジア太平洋大学，株式会社寿福産業



一般社団法人

Glocal Academy

審査員一覧

スライド発表部門 Oral Presentation

《①ジェンダー・教育分野》

- ・島津 公保氏（株式会社島津興業相談役）
- ・小林 昭文氏（産業能率大学経営学部教授）
- ・アリソン・ビール氏（オックスフォード大学日本事務所代表）

《②地域課題分野》

- ・日下部 笑美氏（立教大学大学院客員教授，(株)オープン・シティー研究所）
- ・照屋 友彦氏（沖縄科学技術大学院大学 広報ディビジョン 地域連携セクションマネージャー）
- ・青山 泰司氏（鹿児島県庁総務部財政課 課長）

《③国際関係・観光・ビジネス分野》

- ・日下部 元雄氏（(株)オープン・シティー研究所所長，元世界銀行副総裁）
- ・井上 健氏（国際協力機構（JICA）シニア・アドバイザー，元国連東ティモール統合ミッション（UNMIT）民主的ガバナンス部 部長・チーフガバナンスアドバイザー）
- ・ユキ・近藤・シャー氏（在福岡米国領事館 広報担当領事 兼 福岡アメリカン・センター 館長）

《④環境問題》

- ・上田 正人氏（関西大学化学生命工学部 教授）
- ・毛 彩霞氏（地球環境戦略研究機関（IGES））
- ・森田 宏子氏（国際基督教大学大学院 外交・国際公務員養成プログラムアドバイザー，元国連事務局 経済社会局 持続可能な開発部 小島嶼国課課長）

《⑤自然科学・数学》

- ・森田 洋平氏（沖縄科学技術大学院大学准副学長）
- ・出原 浩史氏（宮崎大学工学部 准教授）
- ・宇津木 光代氏（Springer Nature）



一般社団法人

Glocal Academy

ポスター発表部門 Poster Presentation

《①教育分野》

- ・木村 大輔氏（一般社団法人 グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)）
- ・前原 志保氏（九州大学 大学院人間環境学研究院 特任助教）
- ・井口 由布氏（立命館アジア太平洋大学 社会連携部長）

《②国際・観光・心理学分野》

- ・東 まゆみ氏（オックスフォード大学日本事務所代表補佐）
- ・奈良迫 英光氏（FLY&STAY ツーリズムかごしま主宰，前鹿児島県観光プロデューサー）
- ・河野 久氏（宮崎大学 国際連携センター コーディネーター 国際関係論）

《③地域・国内課題分野》

- ・堂園 文子氏（堂園メディカルハウス）
- ・磨田 省三氏（南国交通株式会社商事部統括マネージャー）
- ・亀元 文典氏（株式会社鹿児島銀行地域支援部地域開発室長兼公務金融室長兼九州フィナンシャルグループ戦略部営業企画グループシニアマネージャー）

《④環境・防災・防疫分野》

- ・吉田 理一郎氏（鹿児島大学農学部准教授）
- ・今 隆助氏（宮崎大学工学部 准教授 数理生物学）
- ・岡本 沙耶佳氏（(株)13xborders 代表取締役）

《⑤自然科学・数学分野》

- ・木村 健太氏（広尾学園中学校高等学校医進・サイエンスコース統括長）
- ・前田 恵一氏（前田塾主宰）
- ・谷口 育雄氏（九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所准教授）



一般社団法人

Glocal Academy

第5回 高校生 国際シンポジウム

The 5th International Symposium
for High School Students

人類の英知の上に立ち、
未来を創る



一般社団法人

Glocal Academy

February 13 (Thu), 14 (Fri), 2020
宝山ホール 鹿児島県文化センター

体験レポート

第5回 高校生国際シンポジウム

2月13日と2月14日の2日間にわたり、鹿児島県で全国の高校生が課題研究の成果を発表する「第5回 高校生国際シンポジウム」が実施されました。シンポジウムの様子、発表内容や講評などをご紹介します。



今回の第5回高校生国際シンポジウムの参加校数は合計74校。過去大会とくらべ、さらに日本全国の高校生でにぎわった会となった。研究分野も文系理系ともによりバラエティに富み、2日間の開催で延べ人数1,400名以上もの教員・生徒が参加した。

全校157組の参加希望から書類審査を通過した50組の80名がスライド発表を、53組の87名がポスター発表を行った。スライド、ポスターともに各5分野でそれぞれ10～12組が発表し、上位となった発表には最優秀賞、優秀賞、優良賞が贈られ、昨年に引き続き、各部門の最優秀発表にはシンガポールで行われるGlobal Link Singaporeへの推薦参加資格が与えられた。

スライド発表の部	ポスター発表の部
ジェンダー・教育分野	教育分野
地域課題分野	国際・観光・心理学分野
国際・観光・ビジネス分野	地域・国内課題分野
環境問題分野	環境・防災・防疫分野
自然科学・数学分野	自然科学・数学分野

今回のシンポジウムでは、後述の基調講演やパネルディスカッションのほか、大学教員や企業などの有識者を中心に、オープン・シティ研究所所長、元世界銀行副総裁の日下部元雄氏、(株)島津興業 取締役相談役の島津公保氏、沖縄科学技術大学院大学准副学長の森田洋平氏など、30名の審査員が、発表形式やテーマに分かれて審査を行った。研究の背景や目的、研究手法と、得られた結果の考察、結論といった研究内容の評価に加え、スライドやポスターの体裁、プレゼンテーションの技術、さらに研究に取り組む姿勢などが評価基準となり、部門ごとの審査員で審議をしながら、各賞の決定がされた。

大学入試改革や「総合的な探究の時間」の先行実施を受け、こうした大会への参加はますます重要度を増し、参加する高校数も全国的に拡大を見ている。校内での複数回にわたる中間発表の実施はもちろん、このような大会で校外の有識者からの評価・アドバイスを心得、普段出会うことができない他地域、他校の生徒との交流、協働をする経験は今後の大きな学びに向けたキッカケとなるだろう。

スライド発表

スライド発表の部は、「ジェンダー・教育分野」「地域課題分野」「国際・観光・ビジネス分野」「環境問題分野」「自然科学・数学分野」の5分野に分かれて行われた。各分野から1人ずつ、最優秀賞・優秀賞・優良賞が選ばれ、各部門の最優秀賞受賞者の中から1名がグランプリとして表彰された。

「ジェンダー・教育分野」

10組が発表。トランスジェンダーやLGBTといったマイノリティに関するテーマや女性の進学や社会的地位、女性像のテーマ、児童虐待、環境問題の教育、高校生の政治への関心向上、学生の認知症への理解、発達障害児支援についてのテーマが発表された。

「地域課題分野」

10組が発表。放置自転車の解決や持続可能な公共交通機関、道路損傷の情報提供といった生活インフラに関するテーマ、県知事のマニフェストの談話分析や若年層の投票率向上といった政治に関するテーマのほかにも、「警戒レベル」の認知について、医師不足について、耕作放棄地活用について、地域の食糧廃棄削減システムについて、豪雪地帯の雪の活用法についてといったテーマが発表された。

「国際・観光・ビジネス分野」

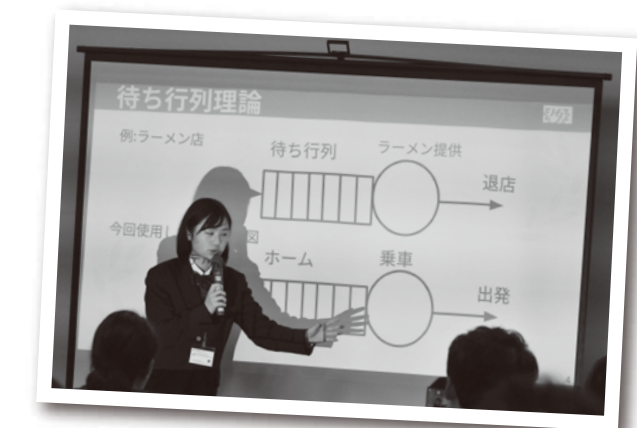
10組が発表。アフリカ女性の社会参加やカンボジアの農業、世界のスマートフォンOS市場といった海外に関するテーマ、国際性豊かな若者の育成、多文化共生、訪日外国人の熱中症予防、外国人生徒への学習支援といった日本の国際化の課題についてのテーマ、地方創生、観光地に住む日本人のための街づくり、特産物の広報戦略といった観光・ビジネスのテーマが発表された。

「環境問題分野」

10組が発表。海や河川のマイクロプラスチック汚染についてのテーマ、生態系回復、森林再生についてのテーマ、薪の代替案としてのソーラークッカーの提案、PETを分解する微生物、川の魚類相調査、海水準変動の解明、耐火性と断熱性の新素材の開発、地下水についてのテーマが発表された。

「自然科学・数学分野」

10組が発表。HHOガスの植物への影響、セミの羽化と気候の関係、ミドリムシの培養メカニズムといった生物のテーマ、モーリーの定理の四角形への応用、待ち行列理論の鉄道ダイヤへの応用といった数学を用いたテーマ、金属イオンの定量装置の開発、塩素酸によるルミノール反応といった化学を用いたテーマ、ブルーライトの体内時計への影響、小説と漫画の脳への影響、人工心臓生体弁というテーマが発表された。



ポスター発表

ポスター発表の部は、「教育分野」「国際・観光・心理学分野」「地域・国内課題分野」「環境・防災・防疫分野」「自然科学・数学分野」の5分野の発表が行われた。ポスター発表の部からも、各分野から1人ずつ、最優秀賞・優秀賞・優良賞が贈られた。

「教育分野」

10組が発表。幼児教育から高校教育まで、さまざまな切り口で行われた研究が発表された。教育スタイル、授業スタイルの提言、ジェンダーバイアス、性差別に関するもの、学力向上、発達障害を持つ子供の学び、制服について、ヘアドネーションについてなど幅広いテーマが並んだ。

「国際・観光・心理学分野」

10組が発表。ベジタリアンやヴィーガンのためのレストランについて、LGBTツーリズム、ICT観光マーケティング、オーバーツーリズム解消といった観光に関するテーマ、大人のための学校によるアジアの活性化、持続可能な公共交通計画のカンボジアへの提言といった国際テーマ、パーソナルスペース、女子高生の人間関係、障害者との共生社会、第一印象が与える影響といった心理学的なテーマなどが発表された。

「地域・国内課題分野」

10組が発表。UHCの達成、癌とホスピスについてといった健康問題のテーマ、経済成長の仕組みの過疎地域への応用、文化祭を活用した地域活性化といったテーマ、男女の働き方についての考え方の違い、職場における女性像といったジェンダーのテーマ、用水路の活用、子ども食堂、原発など、多様なテーマが発表された。

「環境・防災・防疫分野」

10組が発表。アオサによる赤潮の収束、クラゲチップによる水質汚染防止、珪藻を用いた水質調査といった海や川の環境問題についてのテーマ、SIRモデルによるデング熱流行過程の再現といったテーマ、オガクズによるバイオトイレ、外来／在来アリの生態、外来植物の在来植物への影響といったテーマ、イシクラゲの肥料化、災害時のプールでの発電、吸水性ポリマーによる防災土嚢といったテーマが発表された。

「自然科学・数学分野」

12組が発表。BSアンテナによる太陽の表面温度測定、Dots and Boxesの必勝法、イオン交換基のセルロースへの導入、ミドリムシと麹の混合培養、ユキノシタのアントシアニン合成の外的要因、カタラーゼの起源、交替性転向反応とアルコールの関係、紅花の水洗浄の簡略化による新たな染色方法、紫キャベツ色素、太陽電池の作製、脈拍と暗記力の関係、ナノカーボン複合構造体の性質といったテーマが発表された。



基調講演

基調講演では、慶應義塾大学法学部教授の田村次朗氏より「これからの社会に向けた教育と実践～交渉学のすすめ～」という演題で、本誌p.2～4のインタビューで田村氏に話していただいたような、日本人に欠けていることの多い対話力、交渉力の重要性について、高校生にわかりやすく語られた。

「ただ知識だけ蓄えていても、議論ができなくて仕方ない」ハーバード大学時代に教授に言われた印象的な一言を高校生に共有し、リベラル・アーツとは、知識としての教養ではなく、対話によって意見を出し合いながら学ぶことだと語った。

基調講演を聞いた生徒からは「自分の意見をはっきり言えるようになりたいと強く感じた」「自ら発信する大切さや意味を理解できた」「勉強の内容を深め、議論する力を高めることが大切だと感じた」というような頼もしい感想がこぼれた。また、教員からも「喜んで議論をする自信と対話力にあふれる生徒を育てたいと思った」といった感想が寄せられた。



パネルディスカッション

オックスフォード大学日本事務所代表 アリソン ピール氏、株式会社島津興業取締役相談役 島津 公保氏、経済産業省サービス政策課長 浅野 大介氏、シュプリンガー・ネイチャー社 宇津木 光代氏、(株)オープン・シティー研究所所長 日下部 元雄氏、沖縄科学技術大学院大学准副学長 森田 洋平氏の6名をパネリストに迎え、「高校生にいま必要なこと」について意見交換を行った。

それぞれ異なる立場から、コミュニケーション力の重要性、教員が生徒に夢を語ることの大切さ、社会の中の問題を「自分が解決すべき問題」と捉えたと問題の見方

が変わること、海外との交流を積極的に持ってショックを受けることを期待する、といったメッセージが語られた。自分の目の前の教科書を勉強するだけでなく、自分が興味を持てるものを探し、当事者意識を持って考えられるようになってほしいというメッセージが届けられた。質疑応答の時間には、生徒たちが意欲的にパネリストに質問をし、対話を通して理解をさらに深めた。

パネルディスカッションを聞いた生徒からは、「好きなことを見つけることの大切さを感じられた」「分野の違う専門家が話し合うのを聞くのは興味深かった」「自分の興味を持ったことを持続させて調べたり研究したりすることが重要だとわかった」などという感想が寄せられた。



ゲスト講演

ゲスト講演では、公益財団法人船井情報科学振興財団理事、東京大学名誉教授の益田隆司氏が「これからを生きる君たちへのメッセージ」という題目で、高校生に語りかけた。

前日の田村氏による基調講演の内容を受け、交渉のコミュニケーションも大事だが、その前に基盤として、自分の好きなことを若い間に見つけておくことが重要だと力説した。自分が本当に興味を持てることについて専門的に詳しく勉強し、極めること。そのためには基礎も欠かさない。日本人に交渉力などが足りない理由の一つは、日本社会は流動性が少ないからだ。優秀な人ほど移動が少ない。そういった社会では、交渉力を身につけるのは難しいだろう。移動をしたほうが、視野は広がる。だから、優秀な学生ほど移動をしてほしい、と語った。

講演を聞いた生徒たちからは、「基礎をしっかり身につけ、好きなものの専門を極めることが大切だとわかった」「留学について、背中を押されたような気持ちになった」といった感想が寄せられた。

交流会



今年の交流会は2日間にわたって開催され、延べ人数約500人の生徒とその他教員、審査員らが参加した。大会1日目の夜は、各高校の学校紹介から始まり、座席交換も交えて高校生たちは他校の生徒や教員と交流した。最初は緊張していた生徒たちだが、自分の研究や地元の話をする生徒たちの顔からはいつの間にか笑みがこぼれていた。2日目は審査員らも交流会に加わり、活発な意見交換が行われた。表彰式後であったため、生徒たちは自分の研究発表の審査員の前に列を作り、個別に指導・助言を受けていた。

ここで出会った他校の生徒や審査員との熱い語り合いがきっかけとなり、自己の価値観や将来の考え方が変化した生徒も少なくないだろう。そのような機会を生徒に与えられることがこの交流会の醍醐味でもある。

ワークショップ

下記の題目でワークショップが行われ、生徒たちは各々、自分の興味・関心に合わせて参加した。

- ・Soft Power: Storytelling and Influence
(在福岡米国領事館 ユキ・近藤・シャー氏)
- ・研究の魅力を60秒で語ろう
(沖縄科学技術大学院大学准副学長 森田 洋平氏)
- ・SDGs 目標12 持続可能な消費と生産のパターンの政策研究について
(地球環境戦略研究機関 毛 彩霞氏)
- ・留学を視野に入れた、10代・20代の人生設計
(Glocal Academy代表理事 岡本 尚也氏)



表 彰 式

大会2日目に表彰式が行われ、スライド・ポスターの両形式から、各分野について、以下の発表に賞が授与された。

	分 野	最優秀賞	優秀賞	優良賞
スライド発表	ジェンダー・教育	森本 陽加里 (名城大学附属高等学校)	鶴田 紗己 他 (名古屋経済大学市邨高等学校)	横井 佐奈 他 (岐阜県立岐阜高等学校)
	地域課題	松本 恵満 (宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校)	柏 幸輔 他 (広島市立広島中等教育学校)	橋詰 朋弥 他 (岐阜県立岐阜高等学校)
	国際・観光・ビジネス	唐立 莉緒 (宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校)	服部 有紗 他 (岐阜県立岐阜高等学校)	岩佐 麻耶 他 (名城大学附属高等学校)
	環境問題	古田 詩乃 他 (熊本県立天草高等学校)	天満 陽奈子 他 (岐阜県立岐阜高等学校)	佐野 繭子 (神戸市立科学技術高等学校)
	自然科学・数学	福地 彩根 他 (鹿児島県立錦江湾高等学校)	加地 登輝 (郁文館グローバル高等学校)	川村 綺佳 (広尾学園高等学校)
ポスター発表	教育	山田 真希 (名城大学附属高等学校)	外屋敷 月乃 (神村学園高等部)	増田 莉子 他 (兵庫県立柏原高等学校)
	国際・観光・心理学	木全 花 (名城大学附属高等学校)	亀田 桃伽 (佼成学園女子高等学校)	村井 涼佑 (名城大学附属高等学校)
	地域・国内課題	久保 理莉亜 他 (長崎県立諫早高等学校)	宮崎 友理夏 (英明高等学校)	長尾 優里香 (名城大学附属高等学校)
	環境・防災・防疫	宗清 凧紗 他 (池田学園池田高等学校)	廣井 織帆 他 (高知県立高知小津高等学校)	川野 雅人 他 (宮崎県立宮崎大宮高等学校)
	自然科学・数学	柿本 玲衣 他 (芝浦工業大学柏高等学校)	小西 優菜 他 (岡山県立岡山一宮高等学校)	柴谷 椋 他 (大阪府立岸和田高等学校)

2日目の午後にはスライド発表で最優秀賞を受賞した5組が発表し、その中からグランプリ受賞者が決定された。グランプリを受賞したのは、「自然科学・数学分野」で「炎色分光光度計による各金属イオンの定量とその応用」というテーマに取り組んだ、鹿児島県立錦江港高等学校の福地彩根さん、岸下藍己さん、下柳田皓貴さん、富田千紘さん。彼女らは海や川に含まれる金属イオンを分析するために、自分たちで測定装置を開発した。高校生の身近な物理現象や科学の知識から独自に装置を開発し、実際の活用まで行ったことが評価されての受賞となった。

生徒の興味・関心、進路と強い結びつきが強い研究テーマほど、深まりが大きかった。そのため、さまざまな興味・関心、進路に対応できるよう、学校現場においては一部の教員だけでなく、全体で取り組む体制整備作りが今後より重要となるだろう。



講 評

ポスター発表

自分の興味から研究につながった発表が多く、発想力や実行力の感じられる研究もあった。今後の改善点としては、データの有用性や論理の飛躍、考察の甘さといったことを見直すこと。また、発表に自信がもてない場合には、プレゼンテーションの方法を身につけると、より自信をもち、堂々と発表できるようになるというアドバイスもあった。

スライド発表「分野1」

ジェンダー・教育分野の講評は株式会社島津興業取締役相談役の島津公保氏。年々、発表の内容や質が上がっていて、充実していた。どれも身近な視点を通して問題を考えることができている。また、ネット環境を活用するだけでなく、実地調査やインタビューを行ったり、実際に成果物を出せたグループもあったりしたのがよかった。一方、既存の視点に縛られ、視野が狭くなりがちだったのが惜しかった。テーマはそれぞれ興味深く、現代社会の問題に果敢に挑むものばかりだったと高校生を称えた。

スライド発表「分野2」

地域課題分野の講評は沖縄科学技術大学院大学の照屋友彦氏。どのチームも研究のプロセスをしっかりとふまえられていて、発表もよく、甲乙つけがたいものだった。中にはビジネス提案をしたチームもあった。多くのチームが英語で発表をし、質疑応答も英語で頑張っていた。自分の好きなこと、得意なことに加えて英語も身につけると、将来の活躍の場が広がるとメッセージが投げかけられた。

スライド発表「分野3」

国際関係・観光・ビジネス分野の講評は、(株)オープン・シティー研究所所長の日下部元雄氏。この分野では、研究テーマの社会課題の意義についての観点も加味されての審査になった。研究がどれだけ社会に役立つのかという視点だ。好きなことに情熱をかけるだけではなく、社会性、主体性をもつことが高校生以降は重要だ。また、研究の背景としての先行研究への言及が少なかったことが指摘された。

スライド発表「分野4」

環境問題分野の講評は、関西大学化学生命工学部教授の上田正人氏。身の回りの問題に、当事者意識をもって

取り組んでいた。どの研究もSDGsの個々の目標を出発点としていたが、一歩踏み込み、より視野を広げ、ほかの目標とのつながりにも意識してほしい。また、研究から得られる成果を社会にどう還元できるかを検討するとさらによいだろうとエールが贈られた。

スライド発表「分野5」

自然科学・数学分野の講評は、沖縄科学技術大学院大学准副学長の森田洋平氏。どの発表もレベルが高く接戦であった。発表も堂々としていた。研究の姿勢として、仮説を立てて検証するという態度がよかった。研究が思うとおりに進まず仮説どおりにならなかったときに、クリティカルシンキングで、批判的に仮説や実験について検証しなおせるようになるというアドバイスがあった。



第6回
高校生国際シンポジウムの開催について

第6回 高校生国際シンポジウム

主催：一般社団法人 Glocal Academy
日時：2021年2月5日(金)、2月6日(土)
場所：西原商会アリーナ(鹿児島アリーナ)

【参加資格】
全国の高等学校およびそれに準じた学校

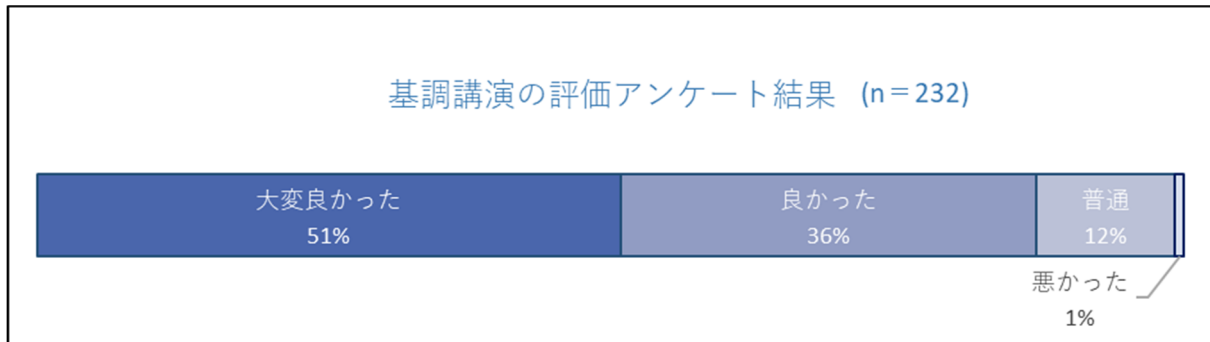
【エントリーについて】
各校10発表まで。所定の研究要綱を12月28日(月)までに大会HPより申し込み(予定)

【詳細】
大会HPアドレス
<http://glocal-academy.or.jp/>

詳細はコチラ

アンケート結果

1. 基調講演について



コメント

交渉学に興味を持った。

例えがあり、面白かった。

自ら発信する大切さや意味を理解できました。

リーダーシップと一言にいても、コミュカ（対話力）と交渉力が大切だということがわかった。自分も自ら求めて学びたいと思った。

社会でこれから勉強や仕事していくには交渉力が大切。自分の学びを使えないと意味がないということがわかりました。今後、仕事を自分のものにしていくには自分がやりたいこと、社会が求めるものを結びつけることが優位に動くということに関心が湧きました。

対話は4人以上集まると成立しないと聞いて自分の周りの話し合いでも5,6人の会話で話さない人が多いと感じました。これからのディスカッションは3人ほどのグループに分かれて意見を言いやすい、相手に任せきりになりにくい環境を作ろうと思いました。また、質を求めすぎず自分の意見をはっきり言えるようになりたいと強く感じました。

私たちには交渉する力が足りないことがわかりました。人の話を聞いたり、それをさらに聞いたことを効率よくすることが大切だと知りました。また、自分から積極的に参加しないと海外でも取り残されていくことがわかりました。

教育について興味があるので、大変興味深い話でした。

勉強の内容を深め、議論する力を高めることが大切だと感じました。

生徒に直に聞かせたかったと思いました。

「will, must, can」の話がとても印象的だった。今、自分の中にやりたいことが見つからないので、もう一度、3つのことを考えてみようと思った。

自分に足りないのはコミュニケーション能力というより、傾聴力だったのかなと思った。

非常に興味深いお話で、生徒だけではなく、教員のこれからについても示唆していただき視野が広がったように思います。ありがとうございました。

「リベラルアーツ教育」を「教養教育」だと考えていたが、対話型で議論しながら学ぶものだを知るこ



一般社団法人

Glocal Academy

とができた。「交渉学」は様々な場面で使える。

社会に出るまでに必要な教育というものを正確に考えることができました。

今まで自分が課題研究を通して考えてきたことが本当の学びにつながるものであることがわかり、今後も研究を続けていく上でのエネルギーを頂き、とても勇気づけられました。ありがとうございました。

私は中学時代、リーダーの立場になることが多かったが、全然まとまらずずっと悩んでいた。今日の話で、自分に傾聴力が足りなかったのだと思うようになった。これからは相手の話を聞いて伝えられるコミュニケーション能力をつけたい。

高校生に対して今、そしてこれからの社会に何が求められているのかを踏まえつつ、高校生への期待をわかりやすく話ししていただいたと感じた。

日本の中で固執した考えでなく、世界とこれからの日本を見据えた内容での講話で教育の中に当てはめることができた。日本では現在でも点数第一のようなところもあると思うので、もっとグループディスカッション等の活動が大学入試で比重が大きくなると高校生も、安心して時間を費やすことができると言ったら変かもしれないが、活動を活発に行えると思った。

時間的制約があり詳細を割愛された部分がありながらも、その部分を自分で調べてみたいと思わせる話で大変良かったとおもいます。

議論を喜んでする自信と対話力に溢れる生徒を育てたいと思った。日本の生徒が議論しないのは自信がないからだと思う。きっかけを与えるときっと変わる。

2. パネルディスカッションについて

パネルディスカッションの評価アンケート結果



コメント

コミュニケーション力を高めたいと思った。

OIST のことを知り、とても魅力的な場所だなと思った。

好きなことを見つけるのがどれだけ大事なのかが感じることもできた。とても勉強になった。

分野の違う方が一堂に話し合うのはとても面白かった。

浅野さんのロジカルな話が非常に興味深かった。

人生はパッションが大事なんだと感じた。

自分たちの情熱がしっかり伝わったと思う。またたくさんの方々から専門的な意見やアドバイスをい



一般社団法人

Glocal Academy

ただくことができてとても良かった。

楽しそうにお話しされているパネリストの皆さんをみて「学ぶ」ことの大切さを再認識できました。理系だけど文系も頑張ろうと思った。

いろんなことにアンテナを立て、まず興味を持つことがスタートだと思った。初めてのパネルディスカッションで少し難しい話だったけど面白かった。

興味を持ってそれに夢中になるまで、それを誰かに伝えたくなり、その興味を持った事柄に「深く向き合えるのだとわかりました。自分の興味を持ったことを持続させて調べたり研究することが重要だとわかりました。自分の思っていることはなかなか出来ないけど、それができる人は成功していくんだな」と思いました。

教育で求められることについて、教員は生徒に夢を語り、生徒が他の人に夢を語れることが大切だと感じました。

皆さんの教育熱に圧倒されました。興味や関心、知的好奇心に基づいた研究の意義を再認識しました。一つの問いに対して複数の方が応答し、問い・答えの発展をしていて学ぶことが多かった。

生徒の質問に対してとても細かく的確に答えていてすごいなと思った。また、パネリストの回答にさらにパネリストが意見を出していて、とても頭の回転が速く自分もこのような議論をできる人になりたいと思った。

4. 研究発表コンテストについて

英語で発表していたり、プレゼンがうまかったり、とても見応えがあった。

自分の研究に生かしたいと思った。

レベルが高くて本当に凄いなと思った。

分野に関係なく研究を見て、自分とは異なる視点を知ることができて良かった。

来年度の探究に生かしたい。

時間のシステムが分かりやすくて良かった。

審査員からいい質問を頂き、良いディスカッションができました。司会もとても上手で会がスムーズに進んだと思います。外に、発表順や懇親会の場所などが記載された紙が掲示されていたのでさらに良かったと思います。

ポスター発表、最初は緊張したが、回数を重ねるうちにスムーズに発表することができた。他に人の発表も自分にはない発想で大変面白かった。

同じテーマでも着眼点やアプローチの仕方が違い、どれもとても面白かった。

自分の自信につながった。

官僚の方々であっても、常に勉強されていて多くの御意見を持っていらっしゃって勉強に新たな視点を見つけられました。

他校の皆さんの発表に対しても問題意識を持ちながら、自分なら・・・と考え、そのあとその方々と意見を交わし合う様子が見れて、大変ありがたい機会と思いました。

生徒の質問する力を感じた。

この発表で子供の成長を見れました。

日下部元雄さんがしっかりと内容を聞いて的確な指摘をされていて感銘を受けた。



一般社団法人

Glocal Academy

理想の社会像を堂々と提示し、それに向けた社会の実現に向けて前進し続ける姿勢に 17 歳ならではの魅力を感じました。

発表の機会をいただいて、どういったら相手に伝わるか、自分たちは本当に研究の内容を理解できているかということがわかった。

自分の学校、他の学校をみたがどの学校も発表の内容やプレゼン能力のレベルが上がった。昨年、一昨年と見ているが発表のレベルが上がっている。

ポスター発表はとても活気があり、観覧しても、発表してもとても良い雰囲気で生徒もののびのびしていました。スライド発表はプレゼンテーション力の高い生徒が多く、感銘を受けました。

5. ゲスト講演について

ゲスト講演の評価アンケート結果



コメント

このままあと数時間喋り続けて欲しい。

私もたくさん勉強して寡黙な教授になりたいと思った。

前日の内容を踏まえたお話で、とても参考になった。

益田先生の人の良さが滲み出るような公演でした。大学進学への意志が強くなりました。

日本の文化も大切であることを知った。

自分の視野を広げることが大切だということがわかった。時間を大切に生きていこうと思った。

基礎をしっかり身につけ、好きなものの専門のものを極める事が大切だということがわかった。対話力は流動性のある社会の中で身につくものであり、日本は流動性の高い他国に比べてないため、対話力を身につけるのは難しいと思った。

お人柄が大変魅力的でした。

流動性を推奨する仕組みを作ることと、昨日の田村先生のようにテクニカルな取り組みが組み合わさって日本社会の雰囲気は変わるのでしょうか？

とても聞きやすかったし、たまに面白い部分があった。受験とかこれからの人生でとてもためになる話を聞くことができて、参考になった。昨日の田村先生の話とはまた違う視点から話を聞けてとても自分のためになった。頭の良い人はいろんな考え方があるなと思って、聞いていて面白かった。

自分も留学をしたいと考えていたため、背中を押されたような気持ちになった。勉強することが、いかに大切かわかった。

人生時計についてもっとお話を聞きたかった。



一般社団法人

Glocal Academy

6. ワークショップについて

基調講演の評価アンケート結果 (n=230)

大変良かった 51%	良かった 36%	普通 12%
---------------	-------------	-----------

「Soft Power: Storytelling and Influence (English)」

Ms. Yuki Kondo-Shah Public Affairs Officer at the U.S. Consulate in Fukuoka, Japan

自分で考える場面があって面白かった。

政治に関心を持ちました。

普段英語の話を聞く機会がないので良い経験になった。

日本とアメリカの若者の政治への関心を少し Joke を交えながら話していたので楽しかった。

日本人は頭で考える力はあるのに、良いアイデアは持っているのにそれを伝えないことに問題があるということに気づきました。

soft power という概念自体がとても現代的で魅力的なものだと感じました。同時にそのランキングをいかに客観的に評価するのかについての難しさを想像させられた。

英語でのワークショップで、なかなか内容がわからないことが多かったが、わかろうと思って話を聞く姿勢がもてた。生徒とも WS 後に色々と話を広げることに繋がった。

こういう考え方もあるんだなと気づけた。

「研究の魅力を 60 秒で語ろう (English/Japanese)」

沖縄科学技術大学院大学准副学長 森田 洋平氏

話し合いの時間が設けられており、楽しかった。

60 秒という短い時間で自分の研究をわかりやすく説明することが、実際に研究者として生きる場合に大切なことを理解した。また、研究だけでなく社会に出た際も自分の仕事を簡潔に説明する機会も同じようにあると考えたので、意識して練習したいと思った。

他の高校の人と対話して、緊張したが良かった。

森田さんの話の中で出てきた粒子加速器や、途中で行われた席替えと互いに自分のことを発表することにより、コミュニケーションを円滑にするという試みも大変素晴らしかったです。

たった 60 秒で人生が変わることを教えてもらった。60 秒の自己紹介を通していかに 60 秒が短いことを学んだ。また、他人の自己紹介を聞いて自分の発表に欠点を感じ、声を鍛えようと思うきっかけとなった。



一般社団法人

Glocal Academy

「SDGs 目標 12 持続可能な消費と生産のパターンの政策研究について(English/Japanese)」

地球環境戦略研究機関 (IGES) 毛 彩霞 (マオ チャイシャ) 氏

SDGs の考え方が変わった

とてもわかりやすく、面白かった。SCP のことをはじめて知った。

持続可能な社会に向けて、ライフスタイルに焦点を当ててずっと遠くに感じていた課題がすごく身近に感じることができた。自然科学を社会科学で捉えて課題に取り組むのはすごい発想だと思う。他にも SDGs の抽象的な課題設定に対する言及や政策を実施する上での難点や考慮すべきことなどすごく勉強になった。

環境について考える良い機会になった。最後の話し合いもいろんな意見が聞けて楽しかった。

「留学を視野に入れた、10 代、20 代の人生設計 (Japanese/English)」

一般社団法人 Glocal Academy 代表理事、物理学博士 岡本 尚也 氏

思ってたより堅苦しくなくて聞きやすかった。今の時代柄、留学すれば勝ち組な風潮だが、そんな中で
の異言語のレベルの高さを認識して、アハ体験ができた。

お金はかかるけどその分得るものがたくさんあることがわかった。いろいろな国の人が集まることで
様々な価値観を知ることができるとわかり、留学はできなくても国際交流の機会があれば参加してみ
たいと思った。

岡本さんの話は何度か聞いたことがあるが、何回聴いても心が動かされそうなものでした

留学という行動ではなく、することに意味があると思った

私も自分のやりたいことを全部挑戦してやっていきます！

留学についてだけでなく、人生について学べた。「偶然を増やし、紡ぎ必然へ」という言葉は、話を聞
くにつれてこの言葉の意味がわかった

この2日間で一番興味を持ったし、一番真剣に聞くことができた。岡本さんの歩んできた人生が独特
で、自分には考えられない人生でした。一番印象に残ったのは岡本さんがたくさんの良い先生に恵ま
れていたことです。これまでずっと諦める、と言うか何かを達成したらやめてしまうことが多かった
のに、とても良い先生に出会い、何事も諦めずに最後まで研究することができたといったことにすご
い感銘を受けた。私は全く留学に興味がなくこの際に一回聞いてみようと思い聞いてみた。私の考
え方が180度変わりました。サイコロの話、とても良かったです。

岡本さんの前向きな考え方や物事をとことん追求する力がとても納得できて感心した。自分に芯があ
り、それを軸とし研究していく姿がとても格好良かった。何より自分自身が楽しんでいて自分もあ
んな感じになりたいなと思った。

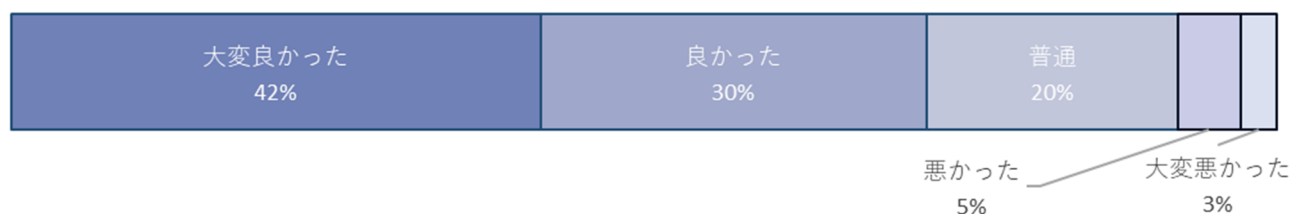


一般社団法人

Glocal Academy

7. 生徒交流会について

生徒交流会の評価アンケート結果



コメント

たくさんの生徒と交流して、学校紹介したり1日の流れを話したり、とても楽しかった。
最初は少し緊張していたけど、学年関係なく仲良くなることができて嬉しかった。
都道府県ごとで並んだりして楽しかった。
地域の枠を越えて生徒が刺激し合える場はとても貴重なもので、とても実りある時間だったと思う。
高校は違うけど実は家の近い子がいて、とても盛り上がった。
他校の人と話す機会はなかなかないので良かった。

8. 全体交流会について

全体交流会の評価アンケート結果



コメント

13日に話せなかった方と話せた良い機会だった。
審査員の方々の様々な感想や建設的な意見を聞くことができてとてもよかった。生徒とも交流ができて良かった。
全く話してなかった学校の先生に声をかけさせていただきました。色々と発表のアドバイスをいただいた上に「話しかけてくれてありがとう」と言われ、勇気を出して話しかけられて良かったです。
明日からの動きを考える場になりました。



一般社団法人

Glocal Academy

自分の評価に納得がいった。

研究手法を指摘され、とても納得したし、もっと丁寧に研究しとけば良かったと後悔した。自分ではわからなかった良いところや悪いところが見えて、もう一度チャンスがあるならば挑戦したいと思った。

11. 職員研修

大変参考になりました。言語化することの大切さに留意していきたいです。

我々教員の方が@「楽しさ」を出すという話が一番納得しました

考え方の視点を示していただき勉強になりました

I use your textbook in a Joho class (in English and Japanese) it is very useful!

小林さんの本を持っていたので、お会いできて嬉しかったです。

他で行く研修と違い（愛知県）探究をやっている学校が多く、メリット・悩み・生徒の伸びしろ・システムなどたくさん学べました。

様々な取り組みを知ることができて良かった。

興味深かった

自分がやっていることの修正・確認ができ、これからの方向性を考える一助になりました

木村先生っていつ見ても機嫌良さそう。機嫌良さそうな先生って楽しく思われますよね、私もそうでありたいです

いろいろな先生とシェアできて良かった

課題を明確化することができた

10. その他感想

様々な地域の人と恋流ができて楽しかった。

今後につながる良い場だった。

今年初めて参加し、最初は緊張のしすぎで楽しめとは言えなかったのですが、発表をし、先生方の話を聞き、同学年と研究を共有し、すごく濃い2日間を過ごすことができた。来年も参加したい。

スタッフの高校生がすぐに動いてくれたのでとても助かりました。丁寧な対応、本当にありがとうございました。

自分の対話力や交渉力のなさにもショックを受けることができたので、これからの生活でも意識していきたいです。（当事者意識）

努力を発表という一つの形にすることができたのは良い結果でした。しかし、この発表で私たちの足りていないところ、課題を知ることができて良かったです。

もっと多くの人に知って欲しい。いろいろなバックグラウンドを持った人と関わることで視野が広がった。

課題を可視化でき、有意義な時間になった。何よりも他校の生徒と交流できた小田が大切な宝物です。審査員の方の技量と熱量が素晴らしいと思った。



一般社団法人

Glocal Academy